（別紙４） 平成 **26** 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4792400030		
法人名	株式会社　ベストビスネスコミュニケーション		
事業所名	認知症対応型グループホーム結の郷		
所在地	沖縄県中頭郡北谷町吉原1180-1		
自己評価作成日	平成27年2月19日	評価結果市町村受理日	平成27年5月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/47/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kihon=true&JigyosyoCd=4792400030-00&PrefCd=47&VersionCd=022

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　介護と福祉の調査機関おきなわ
所在地	沖縄県那覇市西2丁目4番3号　クレスト西205
訪問調査日	平成27年3月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

介護職員が入居者様、ご家族様がゆったりと過ごせる場面、又一人ひとりのペースに合わせてゆったりと過ごすことを中心として支援しています。ご家族様がいつでも気軽に来てくださるので、日頃のご本人の生活の様子を職員は伝えるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

当事業所は、閑静な住宅街にある3階建の民家を、家庭的な雰囲気を残して改修し、平成25年に開設した。共用空間は2階にあり、広々として利用者が畳間や居間等、思い思いの場所で寛げるようになっている。開設当初から自治会に加入し、自治会長が運営推進会議の委員を務め、近隣住民とも日常的に交流している。職員は、利用者の思いを介護計画に反映させ、頻繁に訪れる家族と連携しながら日々のケアに従事している。運営推進会議に、毎回、多数の利用者が参加し、利用者主体を基本とした運営に努めている。看護職員を配置し、医療と連携して利用者の健康管理を行い、緊急時に対応している。重度化や終末期ケアに向けた事業所の指針を策定して、支援体制の整備にも努めている。行政や地域内のグループホーム事業所と連携し、情報交換をしながら事業所運営に取り組んでいる。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
		○	3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	（1）	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者様一人ひとりに職員が寄り添い笑顔で接し、ご家族様に常に入居者様の日頃の生活の様子を伝え、職員とご家族様の良い関係作りに努めています。	理念は、開設前に代表者と管理者が地域密着型サービスの意義をふまえた「経営理念」を作成し、掲示している。管理者は、職員採用時に理念を説明し、出勤時に確認するよう伝えているが、十分な周知には至っていない。今後、職員と話し合い、理念を再検討したいとしている。	理念の再検討に当たっては、法人代表者や管理者だけではなく、職員の参加による全職員での理念の検討、及び共有が望まれる。
2	（2）	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者様と散歩をしながら、近所の方と会話し、手作り野菜の収穫を行ったり、野菜を頂いたりしています。入居者皆さんと外に出て地域のイベント等に参加し、地域との交流に努めています。	自治会に加入し、運動会等の地域行事に参加している。近隣住民とは散歩時に挨拶し、野菜の差し入れがあるなど、日常的に交流している。事業所の敬老会や誕生会には、エイサーや三線ボランティアが参加し、小学生の体験学習も受け入れる等、地域と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設長自ら地域のイベントに参加し、子供たちのスポーツ（野球）を通じて地域の方たちとの交流を積極的に行い、認知症の方の理解を伝えています。		
4	（3）	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で区長さんから、町内の運動会や救命講習会等のイベント参加への呼びかけがあり、職員、入居者様が地域の方との交流に少しずつ活かせてきています。	運営推進会議は、利用者全員と家族代表、行政職員（6月欠席）と地域代表が参加して、年６回、開催している。活動状況等を報告し、委員から地域の情報提供や災害対策等への助言を受けている。議事録にヒヤリ・ハットの報告がなく、会議内容の記載がない月もある。	運営推進会議でヒヤリハットや事故、及び外部評価結果も報告し、事業所運営の透明性を図ると共に、議事録の整備が望まれる。
5	（4）	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	役場職員は、制度に関する相談やご家族様だけでは手続きが難しい場合等は、家族と一緒に出向き相談すると協力して下さいます。	日頃から役場や地域包括支援センターを訪れ、事務手続きや各種制度の利用についての相談をし、助言を受ける等で行政と協力関係を築いている。役場からキャラバンメイト養成講座や終末期ケア等の勉強会（地域の医師やケアマネ等で構成する会）の案内があり、参加している。	
6	（5）	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員ミーティングや朝の申し送り時に拘束について話す機会を設けています。身体拘束マニュアルを参考にし玄関は、日中ご家族様が良く来所されることや入居者様が散歩、花壇の手入れをするので、鍵は開いています。夜間は、防犯の為に7時以降は閉めています。	身体拘束をしない方針を重要事項に明記し、契約時にリスクを含め家族に説明している。職員は、事例検討や研修等で拘束禁止を学んでいる。玄関は施錠せず、利用者が出ようとする時は見守りやドライブで対応している。転倒防止に居室でセンサー使用の利用者が4名いる。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	職員と虐待防止学習や研修を行ったことはありません、入居者様の身体観察（怪我、皮膚の状況観察）をし、入居者様の安全に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後、必要性を感じていながらも、まだ学ぶ機会を設けていません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前、又は入居時に話し合い、説明を行っています。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置し、意見の収集に努めています。御家族様の要望に応えられるように、ご家族様が来所された場合は要望を聞き、申し送り時に報告し反映に努めています。	利用者の意見や要望は、日頃の会話や介護相談員を介して聞いている。家族からは、面会や行事参加の時、電話やメール等でも聞いている。家族から、「階段の苔は滑るので危険」、「マッサージを利用したい」等の声があり、環境整備を図り、個別支援として対応している。	
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや食事会で職員の意見を聞き、運営に反映できるように努めています。	職員の意見は、ミーティングや業務中にも随時に聞き、1～2カ月に1回の代表者を交えた食事会や個別面談等も聞く機会としている。職員からの提案を、30分置きに交換する手拭き用タオルの購入、行事開催時や利用者の外出要求に配慮した勤務時間の変更等に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年一回昇給あり。職員の家庭の状況を聞き勤務シフトを調整しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会・講習会への参加は、希望があれば勤務調整に努めています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の勉強会に参加し、サービスの質の向上に努めるようにしていますが、参加は少ないです。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談時や来所時に御家族と本人も一緒に希望や要望を聞きだし、応えられるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族が相談時や来所時に本人も一緒に希望や要望を聞きだし、応えられるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	良く話し合い、支援内容を考え伝えるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が一人ひとりの話をよく聞き、カラオケや体操を楽しみ、食事を一緒にとり、誕生会等楽しく過ごしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族は気軽に来所され、一緒にお部屋で過ごしたり、食事をしたりしながら、日頃の様子を職員が伝えるようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族の写真を見たり、昔の思い出を聞いたり、外出し近所の方と挨拶を交わしたりしています。	利用者と地域社会との関係性は、本人や家族、地域の人等から聞いて把握している。利用者が勤務していた小学校や以前に利用していたデイサービスを訪問したり、法事への参加を支援したりしている。地域の人や親族等の面会を歓迎し、関係継続の支援に努めている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気が合う方同士の席の配置を工夫したり、職員が間に入ったりして、関係作りに努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなられた方のご家族が今でも気軽に来てくださったり、退去されたご家族からも最近の様子のお電話もあったりします。本人やご家族から相談があれば応じるように努めています。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、声掛けや傾聴で本人の思いや気持ちを確認できるように努めています。	利用者の意向や希望は、日々の会話の中で把握し、「家に帰りたい」、「1日、15日は仏壇に線香を供えたい」等、家族と調整して支援している。把握が困難な場合は、日々のケアを通して、利用者の発する言葉や表情等から把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員が良く入居者様一人ひとりの話を聞き、思い出話やこれまでの生活の様子を聞き、それをヒントにここでの生活に活かせています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日中又は夜間の様子を記録に記入し、心身の状態を申し送り時に報告するように努めています。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティング時に担当者より本人の最近の様子や意見を聞き、介護計画の作成に努めています。	担当者会議に利用者や家族、担当職員や関係機関の職員が参加し、本人ができる事や行きたい場所等、利用者や家族の意向を反映した介護計画を作成している。毎月モニタリングを実施し、計画は半年毎に見直し、退院後の訪問リハビリ導入等、状態変化に応じて随時の見直しもしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録を確認し、目立った変化があれば見直しています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様や御家族様の状況の変化や要望に柔軟な対応ができるように、必要な時間帯に職員の勤務配置に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方が野菜等を持ってきてくれたり、近くの小学校に行き、子どもたちと挨拶を交わし、楽しんだりすることもあり、少しずつ関係を築きあげてきています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診の際は、ご家族様がご本人と一緒に定期受診をしていますが、普段と違う症状があれば一緒に行き、ご家族様とお医者様のお話を聞き症状の把握に努めています。	利用者は全員、入居以前からのかかりつけ医を受診している。受診は、他科受診も含めて家族対応を基本としているが、必要に応じ、管理者が同行する事もある。受診時の情報交換は、看護師が情報提供書を作成し、医師が返書に受診結果を記載して行い、情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師には、普段の入居者様の様子に変化があれば相談し、入居者様の症状について報告しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先にお見舞いに行き、病棟看護師や相談員と連携し、症状の把握や退院に向けて相談しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に御家族様に事業所の方針を説明し、症状に応じて主治医とご家族様と話し合っております。	「重度化・看取りに関する指針」を明文化し、利用開始時に家族へ提示・説明後、同意書を作成している。医療と連携して、看護師の24時間オンコール体制を確立すると共に、職員間で方針を共有し、支援体制の拡充に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡綱は整備しているが、定期的に訓練は行っていないです。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防訓練を職員と消防の方と行っています。近隣住民には、いざという時には協力依頼の話はしています。	年2回、消防署に届け出て、消防署員が立ち会い、昼夜を想定した訓練を実施し、2回目は、地域住民も参加している。スプリンクラー等の防災設備を完備し、発電機や飲食料等を備蓄している。マニュアルは火災用のみ整備し、台風や地震、津波等の対応が含まれていない。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	話し方や対応には、十分に配慮していくように、申し送り時に話し合うようにしています。	職員は、利用者に対する言葉掛けの声のトーンや大きさ等に注意を払い、馴れ合いにならないように努めている。管理者は、職員の気になる言葉遣いがあった時は、場所を変えて注意し、朝の申し送りでも話し合い、確認し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりのペースに合わせた生活ができるように、会話をしながら気持ちの把握に努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、入居者様の希望にそって生活して頂けるように気持ちを合わせるよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容を職員と共に行ったり、お化粧したり、訪問美容でカットを行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りや片付け等を入居者様と一緒に楽しんで行うよう努め、楽しく一緒に食事をしています。	食事は、法人から届いた食材で、その日食べたいメニューを利用者と一緒に考え、3食職員が調理している。利用者は、食材の追加購入がある時は買い物に出かけ、下ごしらえや味見、盛り付け等に参加している。職員は、利用者とテーブルを囲み、全員で同じ食事を摂っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取を記載し、食事は色々な食材を使用しています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケア、入れ歯の洗浄は毎日支援しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	紙おむつは便が緩い時や夜間、尿意が無い方に使用する以外は、トイレでの排泄を支援しています。	観察や排泄チェック表を活用して、個々の排泄パターンを把握し、日中は全員トイレで排泄できるよう支援している。女性には同性介助に努め、職員配置上、対応できない時は了解を得ている。看護師が医師と連携して、飲物や服薬を工夫し、排泄のコントロールに努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、記録チェックを行い、対応しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人に確認し、入浴を行っています。基本午前中ですが、入りたい時に入れるように努めています。	入浴は、午前中を基本としているが、利用者の希望に添って午後でも柔軟に対応している。同性介助で個浴のシャワー浴である。入浴を嫌がる場合は、2人体制で介助し、安心して入浴できるよう支援している。浴室は、2階と居室のある3階に設置されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自室で休みたい方やソファーで休みたい方がいますので、合わせています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が服薬セットを行い、職員は服薬の支援を行っています。職員には、処方箋内容を理解して頂くように努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事が好きな方、散歩が好きな方、カラオケが好きな方、それぞれの力に合わせた生活に努めています。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	御家族、地域の方との協力での外出は、まだ行えていませんが、日常的に散歩や買い物、ドライブ等を行なっています。	利用者は、日常的に職員と一緒に近所を散歩したり、花壇の草花や野菜に水やりをしている。天気の良い日は、ドライブ等の外出をし、ひまわり畑や足湯温泉、芋掘り等を楽しんでいる。個別には、家族の協力を得て盆・正月等の帰宅や買い物などを支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お一人だけ、ご家族、ご本人が希望されているので、外出先で自由に使えるようにしています。使用したお金はレシートを預かり、残金確認をしてご家族に報告しています。その他の入居者様はお金に関して無理があるので所持はしていません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族にいつでも連絡できる様に支援していますが、手紙は現時点で取扱いはしていません。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	心地よく過ごせるように、整理整頓に努めています。	玄関横のベランダに、季節の花を植えてある。事業所内は採光や換気に配慮し、多目的に利用できる畳間もある。居間や窓辺にソファーを配置して、カラオケで歌ったり、DVDを観賞したり、昼寝をしたり、3階の休憩所でテレビを見る等、利用者は思い思いの場所で過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方同士の席を近くにしたり、居室やソファーで休んでいただく等、ご本人がくつろげる工夫に努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族との写真やご本人が使い慣れた品や寝具を取り入れたりしています。	居室には、ベッドやクローゼット、クーラーが備え付けられ、カーテンの色や壁紙を部屋ごとに変えるなど、各居室が特徴づけされている。利用者は、テレビやCD、日記を付けるための机やランプ等を持ち込み、居心地良く過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアの掃除、洗濯物たたみ、食事の支度が安全にでき、職員と共に行えるように努めています。		